

令和元年11月1日
(2019年)

保護者の皆様

吹田市立片山中学校
校長 島田雅弘

平成31年度全国学力・学習状況調査について

本年度、3年生を対象として「平成31年度全国学力・学習状況調査」を実施し、11月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学・英語に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生にはよりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 調査結果の概要

□学力に関する調査内容

◆国語・数学・英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」、「話すこと」

□全て科目の平均正答率について

- ・国語において、本校生徒の平均正答率は大阪府の平均正答率（以下大阪府値）とほぼ同じ結果であり、全国の平均正答率（以下全国値）を下回る結果であった。
- ・数学において、本校生徒の平均正答率は大阪府値・全国値ともに上回る結果であった。
- ・英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」において、本校生徒の平均正答率は大阪府値・全国値ともに上回る結果であった。
- ・英語「話すこと」において、本校生徒の平均正答率は全国値を上回る結果であった。

□国語 ※主な成果と課題

- ① 「話すこと・聞くこと」の領域においては大阪府値を上回り、全国値とほぼ同じであった。「書くこと」「読むこと」の領域において大阪府値・全国値を下回った。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域においては、大阪府値とほぼ同じで、全国値を下回った。
- ② 「国語への関心・意欲・態度」の観点においては大阪府値を上回り、全国値を下回った。「話す・聞く能力」の観点においては大阪府値を上回り、全国値とほぼ同じであった。「書く能力」「読む能力」の観点において大阪府値・全国値を下回った。「言語についての知識・理解・技能」の観点においては大阪府値とほぼ同じで、全国値を下回った。
- ③ 「選択式」の設問においては大阪府値・全国値を下回った。「短答式」の設問においては大阪府値・全国値を上回った。「選択式」の設問においては大阪府値とほぼ同じで、全国値を下回った。

- ④ 無解答率は大阪府値を下回り、全国値とほぼ同じであった。

【学習の視点・授業改善の視点】

文章の構成や展開を理解して、情報をまとめる力に課題がある。多くの文章を読み取るとともに、その内容を正しく理解する力を育む。

□数学 ※主な成果と課題

- ① 「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」すべての領域において、大阪府値・全国値ともに上回った。
- ② 「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」「数量や図形などについての知識・理解」すべての観点において大阪府値・全国値ともに上回った。
- ③ 「選択式」の設問においては大阪府値を上回り、全国値を下回った。「短答式」「記述式」の設問においては大阪府値・全国値ともに上回った。
- ④ 無解答率は大阪府値を下回り、全国値を上回った。

【学習の視点・授業改善の視点】

基礎的・基本的な知識の定着ができています。しかし、知識を活用して説明する問題においては課題がある。そのような課題に取り組む機会の充実を図る。

□英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」 ※主な成果と課題

- ① 「聞くこと」の領域においては大阪府値を上回り、全国値を下回った。「読むこと」の領域においては大阪府値・全国値を下回った。「書くこと」の領域においては大阪府値・全国値を上回った。
- ② 「外国語表現の能力」の観点においては大阪府値・全国値とほぼ同じであった。「外国語理解の能力」の観点においては大阪府値・全国値を下回った。「言語や文化についての知識・理解」の観点においては大阪府値・全国値を上回った。
- ③ 「選択式」の設問においては大阪府値を上回り、全国値とほぼ同じであった。「短答式」の設問においては全国値・大阪府値を上回った。「記述式」の設問においては大阪府値・全国値とほぼ同じであったが、
- ④ 無解答率は大阪府値・全国値とほぼ同じであった。

【学習の視点・授業改善の視点】

まとまりのある英語を聞いたり読んだりして、話の概要や必要な情報を理解することやそれに対して自分の意見などを記述することに課題がある。基礎的・基本的な知識を定着させ、それを活用することができる力を育むことに努める。

□英語「話すこと」 ※主な成果と課題

- ① 「話すこと」の領域においては全国値を上回った。
- ② 「外国語表現の能力」の観点においては全国値を下回った。「言語や文化についての知識・理解」の観点においては全国値を上回った。
- ③ 「短答式/口述式」の設問においては、全国値を上回った。「記述式/口述式」の設問においては、全国値を下回った。
- ④ 無解答率は全国値を上回った。

【学習の視点・授業改善の視点】

文章の内容は理解しているが、質問に答える際に正しい語を使うことや文章で答えることに課題がある。質問の内容を理解し、また相手が必要としている情報が何かを正しく判断することができるように、ペアワークなどでの話すことを目的とした学習活動に取り組む。

□学校生活・生活習慣

- ① 「朝食を毎日食べている」生徒は8割弱で、全国値とほぼ同じであった。
- ② 「学校に行くのは楽しいと思う」生徒は7割強で、全国値を下回った。
- ③ 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」生徒は4割強で、全国値とほぼ同じであった。学校の授業時間以外に平日に行う勉強時間は3時間を超える生徒が2割弱と全国値を上回った。
- ④ 授業において「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」生徒が6割、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う」生徒が3割強で、ともに全国値を下回った。

2. 今後の取組み

- ① 「授業ルール」「授業規律」を徹底し、知識が定着することで学習意欲を育む。
- ② 学校の授業時間以外の学習習慣を、宿題などを通して定着するように取り組む。
- ③ 他者に何かを伝える際に工夫ができるように、授業において一人ひとりが考える機会が増えるよう取り組む。
- ④ 特活、総合学習の時間や学校行事を通して、自分の将来に目を向けて意欲的に取り組む態度を育む。